

科目単位での出題意図

大問一の問題文は、屍体に対する倫理的態度が日本においてどのように構築されたかを歴史的に論じる文章である。この文章をつうじて、漢字と語彙の基本的な知識、本文の内容を的確に理解して明瞭に説明する力、本文の論理構造を正確に把握する力を問うた。

大問二の問題文は、乳児の言語発達の過程を、「ニャンニャン」という音声の用法の変化を中心に論じる文章である。この文章をつうじて、本文中の語句や概念の意味を的確に理解する力、発達段階の構造や具体例の関係を整理して説明する力、本文全体の論旨を踏まえて筆者の主張を把握する力を問うた。

大問三の問題文は、『建礼門院右京大夫集』より平維盛（作者の恋人資盛の兄）の死去が都に伝わった場面を取り上げた。この文章をつうじて、基本的な古語の語彙、文法の知識を応用して現代語訳できる力、文脈や敬語の使われ方から主語を明確にして内容を読解する力、和歌の基本的な修辭の知識について問うた。

解答又は解答例

【大問二】

問一 ①累 ②鑑 ③形而上 ④慰撫 ⑤勘案

問二 死体は単なる物体ではなく、ただ死体であるというだけで尊厳や敬意の対象となる、という観念。等。

問三 「物」とは身体の解剖学的事実、「理」とは東洋医学が蓄積してきた抽象的な学説を指す。等。

問四 儒学の精神とは、近世中期より医業において内面化されるようになった、屍体を悼む心を意味する。等。

問五 エ↓ア↓ウ↓イ

問六 儒教の観点においては、東洋の観臓は尊ぶべき人体の毀損にあたりとされたため、

非難された。同時に、東洋の屍体供養は、感謝の気持ちを重んじる儒教の考えの表出とみなされたため、賞賛もされた。等。

【大問二】

問一 X↓イ、Y↓ア、Z↓ウ

問二

・第三段階。それまでさまざまな対象に向けられていた「ニャンニャン」が、スピッツや絵本の白犬など特定の対象に限定され、特定の音声が特定の対象と結びつくようになるため。

・第四段階。「ニャンニャン」が特定の対象に限られず、種々の対象や状況に対して発せられるようになり、般的的使用がみられるため。

※本文では三つの時期区分と七つの段階区分が併用されているため、本文の記述に即して適切に説明されているものは、いずれも解答例として扱いうる。

問三 大人の社会で一般に用いられている、社会的に共有されたことば。等。

問四 対象表示語↓パンプ、ムイムイ等。状態表示語↓アチアチ、ベトベト等。

問五 一つは、ことばが認知や思考活動に参加し、外界の情報を分析・分類する側面であり、①が相当する。もう一つは、ことばそのものの意味を素材として独自の表現世界を作り出す側面であり、③が相当する。等。

問六 特定の音声をさまざまな対象に用いる経験を通して、子どもは音声と外界との対応関係を見だし、自分の音声を、外界を表現する手段として用いるという「言語的構え」を形成する。このことが、その後の語彙の急速な獲得や言語発達の基盤となる。等。

【大問三】

問一

- ① 本心に優れていたことなどが思い出される
- ② ほめない人はいただろうか、いやいなかった
- ③ 花の美しさもまったく圧倒されてしまうに違いない

問二 維盛がめつたにないほどの容貌や心遣いを備えていて、昔にも今にも例がないほどの素晴らしさであったこと。

問三

〔二〕ア

〔三〕維盛と資盛を兄弟だからという理由で同じと思えと言っている。

問四

〔一〕「憂き目」、つまりつらい目という意味である。

〔二〕「み」は「見」と「み熊野」（接頭語「み」）の意味が掛けられている。